

呼吸器問題集

呼吸器疾患の糸口とミニマムエッセンスを知る

呼吸器疾患は全身疾患の1つの臓器症状（健診異常や呼吸器症状）として訴えられる場合が多く、鑑別が多岐に及びます。胸部X線写真や胸部CTで肺炎を疑う陰影があっても、カビだらけの自宅に居住している場合や古民家の大掃除後では急性過敏性肺炎を、薬剤内服中や点滴治療後では薬剤性肺炎や肺胞出血の可能性も疑います。関節リウマチの治療中なら原病による間質性肺炎や胸膜炎、気管支拡張症、気管支炎、薬剤性肺炎などの可能性を疑いますが、免疫抑制下における感染症も挙げられます。このように、肺の異常陰影は多種多様な鑑別を要し、さらに癌領域で登場した免疫チェックポイント阻害薬（ICI）は免疫関連有害事象（irAE）と呼ばれる全身症状を生じ、薬剤性肺炎の重要な要因の1つとして外せない時代になりました。

咳のある患者が来たとき、患者背景や基礎疾患、常用薬などをすべて聴取し、普段の生活がイメージできたら、主訴と病歴だけでなく、身体所見、画像所見から得られる“特定の呼吸器疾患を想起するためのより確かなヒント”も臨床医は活用しています。さらに、診断したその先を意識した治療も重要となります。例えば、間質性肺炎なら抗線維化薬を投与することで呼吸機能低下や急性増悪を抑制し、生命予後も延長するエビデンスが蓄積されつつありますが、呼吸不全が進行する場合には肺移植の可能性も考えなければなりません。繰り返す気管支喘息発作や慢性閉塞性肺疾患（COPD）の急性増悪はコモンな疾患ですが、より早期に診断して治療介入し、いかにして増悪のない状況を維持するかが重要な課題です。

本特集は、幅広い鑑別を要する呼吸器疾患の代表的な症例をもとに、適切に診断・治療につなげるための糸口とミニマムエッセンスを知ること为目标にしています。間質性肺炎のイロハや在宅酸素療法/肺移植、COPD、気管支喘息、気管支拡張症、肺癌、知っておくと得する内科外来の諸問題について特集内の問題を通して追体験し、学べる仕様になっています。

「間質性肺炎」の章では、特発性か二次性かを考えさせる問題をはじめ、ステロイド治療をすべきかどうか、抗線維化薬を使うべきかどうか、画像パターンからの読影法に加え、在宅酸素療法の適応や肺移植の適応も考えます。「COPD」の章では、呼吸機能検査なしでどこまで診断に迫れるのか、気管支喘息との鑑別、急性増悪期や安定期の患者のマネジメント（ワクチンを含む）について学びます。CO₂ナルコーシスなど、コモンな病態も追体験します。「気管支喘息」の章では、難治性喘息の診断と治療（生物学的製剤の使い分け）や喘息の類似疾患（喘鳴を呈する疾患の総ざらい）にも触れています。気管支拡張症は肺非結核性抗酸菌（NTM）症の急増に伴い、注目されています。そこで、「気管支拡張症」の章ではプライマリ・ケアのセッティングでどこまで鑑別するかに加え、副鼻腔気管支症候群や難治性副鼻腔炎についても学びます。クリニックや市中病院、大学病院のどこでもかかわることが多くなると予想される血痰、喀血のマネジメント、肺 NTM 症の診断と治療導入のタイミングも考えることができる内容となっています。「肺癌」の章では、典型的な腫瘍随伴症候群の症例に加え、irAE や X 線写真での“肺癌のかくれんぼ”を見つけ出す読影方法を学ぶほか、日常臨床でよく遭遇する病態について、知っておくと得するエッセンスが詰まっています。

執筆者の先生方は小生が信頼するその道のエキスパートであり、きらりと光る診断の糸口とミニマムエッセンスを伝授してくださっており、必ずや先生方の明日からの診療に役立つ内容になっていると思います。患者さんと先生方の未来の笑顔につながる特集となれば幸いです。



皿谷 健

（杏林大学医学部呼吸器内科学教室）